

井上まい

通信

令和5年第5回福岡市議会（9月定例会）にて一般質問に登壇！

9月1日～10月5日まで、福岡市議会9月定例会と、令和4年度決算特別委員会が開かれました。井上まいは、9月定例会の中で一般質問に登壇し、地域の皆様から頂いたお声から2点のテーマについて質問をいたしました。今回の質問の概要についてご紹介いたします。

公式HP



寄り添う政治
で地域に尽くします！



AEDを必要な時に使えるよう改善を！

AEDとは心停止を起こしたような場合に使用する救命用の医療機器です。2004年から一般の方でも使用できるようになり、現在では認知も広がってきました。AEDは、一見操作が難しそうに思われかもしれませんが、機器の音声指示通りに操作すれば、電気ショックが必要か否かも機械が判断しますので誰でも安心して使用することができます。今回の質問では、本市が主に市有施設に設置しているAEDについて、市民の皆さんがより効果的に活用ができるような設置方法について提案させて頂きました。



AED

ポイント 市が設置しているAED734台
(そのうち24時間使用可能なAEDを設置している施設は24施設のみ)

24時間誰でも使用できるように、例えば身近な施設である公民館などではできる限り屋外にAEDを設置し近隣住民の方がいつでも使用できるよう求めました。また、事業所等が設置しているAEDについても、市民が借りできるものについては市が把握し、既存のAEDマップに反映させることや、自治会などでのAED購入について補助制度を創設するなど、市民が利用できるAEDを身近に増やすための取組みを提案しました。

ご存知ですか？福岡市は水道水にもこだわっています！

福岡市の水道水は、適度にミネラル等の成分を含みつつ、おいしい水道水の味を損なうことがないよう、残留塩素などの成分については、国の水質基準等より厳しい福岡市独自の水質目標を設定し、低減化を図っています。ひと昔前に比べると、水道水の味は格段に改善され安心して飲んでいただける品質を保っています。

しかしながら、2019年の水道局アンケートによると、約22%の方が、ボトル水などを購入したり、ウォーターサーバーを利用するなど、水道水を飲用利用していないということが分かりました。加えて、約43%の方が浄水器を利用するなど、多くの方が水を飲むのに特別な費用をかけているということが分かりました。もしその理由が「なんとなく不安だから」という理由で購入されているとすると非常にもったいないことだと思います。

水道水の供給には大きく分けて二通りあります。直結式給水という、ご家庭まで直接水道管が引かれている場合と、マンションなどに設置されている貯水槽を経由する方式です。直結式給水は、蛇口まで福岡市水道局が責任をもって水道水を供給する一方、貯水槽式給水は、貯水槽から先はマンションやビルの所有者が主に責任をもって水質管理を行うことになっています。現在は、集合住宅でも約半数は直結式給水とされていますが、そもそもお住いのマンションが直結式給水か貯水槽式給水かということをご存じない方が多いというのもアンケート結果に出ています。直結式給水の推進に引き続き取り組みつつ、貯水槽式の建物でも清掃の状況や管理状況を住民に対し可視化するような取組みを提案し、安心して水道水を飲用利用できるよう積極的な取組みを要望しました。



令和4年度決算特別委員会のご報告

決算審議において「不認定」と判断。
会派を代表し、討論(意見を述べる場)に立ちました。

毎年、9月10月の時期には、前年度(今回で言うと令和4年度)の総決算を行います。ざっくりいうと、1年を通してどのような事業を行い、その結果がどうだったのか。ということ全局全事業総ざらいします。特に問題がないと認められれば決算に対し「認定」となるわけですが、なにか問題があったり、成果がなかったと認めれば、「不認定」という判断を下すこともあります。



今回、私が所属する会派「福岡市民クラブ」が、不認定とした主な理由をご説明いたします。

1 本市が力を入れ始めた環境政策での失敗

福岡市は、令和4年度に「福岡市地球温暖化対策実行計画」の改定と同時に、特に「未来につなぐ脱炭素のまちづくり」に関連する事業について多くの事業で前年度より予算を拡充、また新規事業を計画していました。さらに、年度途中には、1億2,000万円余の追加補正を実施し、「ECOチャレンジ応援事業」という施策の内容を拡充し、温暖化対策に力を入れた年度でした。しかし、決算を審査したところ、複数の事業において執行率(予算に対しての利用率)が著しく低く、関連事業トータルでも8億7000万円余の予算額に対し、決算額4億8500万円余であり、3億8000万円以上の予算が使われずに残ったことが分かりました(執行率は55.7%)。執行率が低かった要因は複数考えられますが、事業の実施時期が市民のニーズと噛み合っていなかったり、そもそも周知ができていなかったりと、環境行政の失策が浮き彫りとなりました。

2 「子ども習い事応援事業」の課題

令和4年度は、子育て政策における目玉事業として「子ども習い事応援事業」というものが新規事業として実施されました。対象世帯(所得制限有)の子どもに月に上限1万円分の習い事で使えるクーポンを交付するというものです。この事業は「貧困の連鎖を断ち切る」というテーマのもと進められた事業であり、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されることのないよう、個性や能力を伸ばし、自己肯定感を育むといった、いわゆる体験格差の解消を含めた子どもの将来の可能性を広げることを目的として実施されたはずでした。しかし、決算審議の中で、対象としている子どものうち、約21.6%しか利用されなかったということが明らかになり、さらに細かく実績を見てみると、利用者の約8割が学習塾の利用で、文化、スポーツなどの習い事についてはそれぞれ1割程度の利用にとどまったことが分かりました。学習塾を否定するものではありませんが、学習機会はすべての子どもたちに平等に学校教育を通して保障すべきものであり、本来の目的としていた体験格差の解消に効果があったとは認めることができませんでした。私たちは、政策効果を上げるためにも、対象世帯の拡充や、使える習い事の教室を拡大するなど事業の改善を強く求めました。

この他にも、各事業において、課題が残るものも多くありましたので、それらについては次年度以降効果的な予算執行となるよう討論の中で求めました。



井上まい プロフィール

1989年(平成元年) 志免町生まれ
2008年(平成20年) 福岡県立明善高等学校卒業
2013年(平成25年) 九州大学 21世紀プログラム課程卒業
2015年(平成27年) 株式会社リクルートジョブズ入社
2018年(平成30年) 衆議院議員いなどみ修二 秘書
2019年(平成31年) 福岡市議会議員選挙初当選
2023年(令和5年) 福岡市議会議員選挙2期目当選
所属会派：福岡市民クラブ
所属委員会：教育子ども委員会・議会運営委員会・都市問題等調査特別委員会



〒814-0155 福岡市城南区東油山1丁目1-16 東野ビル1F
TEL.092-874-2601 FAX.092-874-2602

今期初の決算審査、厳しい態度でのぞむ!



●写真/決算総会「採決(賛成起立)」にて反対する福岡市民クラブ

令和5年度 第5回 福岡市議会 (9月定例会) 開催

第5回定例会(9月1日～10月5日)が召集され、一般会計補正予算案、条例の改正、令和4年度決算に関する議案等、全56議案について審議しました。中でも、不登校特例校の設置に関する追加議案について、ご報告いたします。

不登校特例校の設置 検討費用の追加補正について…約981万円

不登校の中学生を対象に特別な教育課程を編成し運営する不登校特例校を新規開設するための設置検討費用を追加するという議案です。教育委員会が行ったアンケート調査から不登校特例校のニーズが確認されたことから設置に向けた検討をすることになりました。

- 開校時期… **2025年春**
- 設置場所… **早良区の市教育センター内**
- 想定人数… **40～60人を想定**

豪雨災害を想定した防災対策の強化を!

一般質問[9月4日] **勝見 美代 (西区)**

7月の豪雨は、福岡市内において河川の護岸崩壊や道路の冠水、雨水排水路での溢水、高齢者施設の床上浸水被害などをもたらしました。今回の**被害に関する原因の調査と近年の豪雨に耐える雨水排水整備計画の検討等あらゆる状況を想定した対策**を求め、市からは「被害があった箇所については詳細な調査を行い、浸水安全度向上のための効果的な対策を検討し実施する」との回答を得ました。特に高齢者施設については福祉避難所になることも考えられることから、令和6年4月までに求められている**業務継続計画の策定の支援**を強く要望しました。

人工芝由来のマイクロプラスチック対策を

一般質問[9月5日] **前野 真実子 (早良区)**

マイクロプラスチック(MP)は、海洋生物に限らず人体への影響も懸念されており、削減が必要です。発生原因として、最近注目されているのが人工芝で、民間企業が本市の河川調査をしたところ、多いところで、**18%が人工芝由来のこと**。本市の市有施設には、人工芝のテニスコートがあり、そこから芝のチップが雨に流れ、河川への流出することが発生源の一因として考えられます。**対策として、不織布を使ったフィルターを側溝に取り付ける、劣化に強い人工芝を使う**、などが有効です。本市としては、「国や県の動向を見守る」とのことでしたが、福岡市で取り組むべきだと訴え、福岡市独自の環境調査、対策、啓発活動を行うことを強く要望しました。

まずは当事者の声を大切に!不登校特例校

議案質疑[9月1日] **田中 たかし (西区)**

2025年春の開校を目指して今年度から事業を進められるよう追加補正された「**不登校特例校(中学校)の設置検討費用**」について質問。**不登校児の学びの場を確保するための措置**ではあるものの、設置場所が福岡市教育センターでいいのか、1校でいいのか、小学生の不登校児はどうするのか、さらには「アンケート結果を元に設置を検討することとした」としながらもアンケート対象者が不登校児4,400人とその保護者にも関わらず回答数が児童生徒142人、保護者362人と少ない、本当に当事者の意見を把握できているのかなどの課題点を指摘、質問しました。学習カリキュラムは今後検討されることから、**当事者の声に耳を傾けた学校となるよう強く要望**しました。

小学校の生き物飼育の環境・体制の向上へ!

一般質問[9月5日] **小竹 りか (南区)**

小学校では、1・2年生の生活科の中で「生命の大切さ」を学ぶため、生き物を飼っていますが、適正な飼育でなければ、むしろ生命の軽視へとつながります。気候変化、アレルギー、教職員への負担等があるものの、教育長は、「生き物飼育は大きな意義があり、より充実した教育活動に取組む。」と答弁。暑さに弱いウサギが市内99校(全145校)で飼育され、他都市と比べ多いことから、防暑や大雨対策など福岡市獣医師会との連携の下、**飼育環境・体制の向上にスピード感をもって取組むよう要望**しましたが、現状把握のため各学校にアンケートを実施し、**必要に応じ助言・指導するとの回答**にとどまりました。

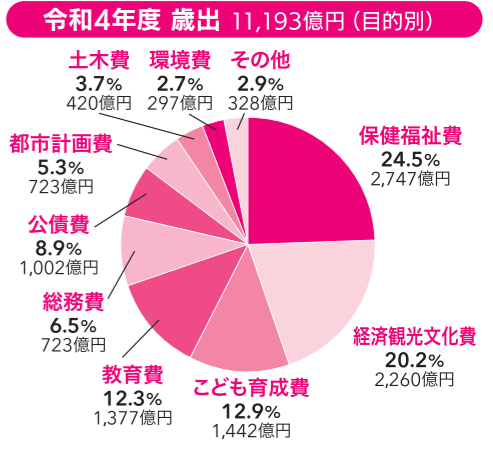
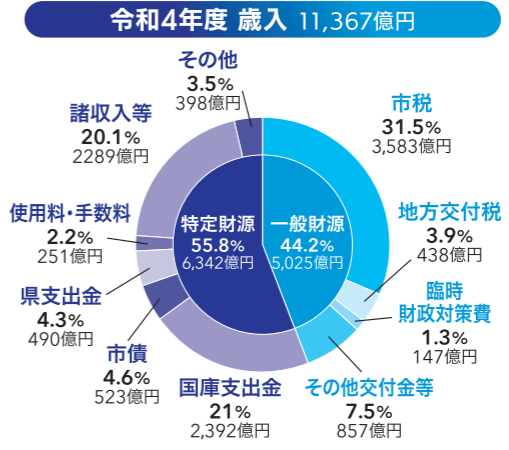
飲用水を購入するのはもったいない!

一般質問[9月6日] **井上 まい (城南区)**

福岡市は**国の基準を大幅に超える水質基準をクリアした水道水を提供**しています。以前に比べ、ミネラル分を残しながらカルキ臭を抑えるための工夫もされ、水道局も積極的な飲用利用を勧めています。しかしながら、実際は**水道水を直接飲用利用している割合は約28%と少なく**、多くは浄水器経由での利用をしている他、**ペットボトルの飲用水を購入する人が増加傾向**であることも判明しました。要因として水道水に対するなんとなくの不安感があるものと仮定し、不安を払拭し、水道水をより飲んでいただくため、直結式給水(貯水槽を経由しない方式)の推進と、貯水槽式の建物であれば適正管理されていることを積極的に住民に伝えるための工夫を要望しました。

令和4年度 決算特別委員会 開会 [9月15日(金)～10月4日(水)]

一般会計の歳入は前年度比2.8%、歳出は3.1%減少。市税収入は過去最高額を更新し、実質収支は98億円の黒字となりました。一方で義務的経費(人件費、公債費、扶助費)は増加しており、財政の弾力性を示す経常収支比率は昨年度から3ポイント悪化し93.6%。少子高齢化、公共施設の老朽化も進み、一般財源の大幅な伸びは期待できず、社会保障関係費や公共施設等の改修・修繕に係る財政需要の増大が見込まれるため、歳入の積極的な確保を進める必要があります。



若者・LGBTQを誰一人取り残さない包括的支援を!

総会質疑[9月19日] **池田 良子 (西区)**

近年、刑法犯の認知件数は減少傾向にある一方で、再犯率は増加傾向にあります。2016年「再犯の防止等の推進に関する法律」が施行、本市においても2022年3月「再犯防止推進計画」が策定されました。計画の進捗状況を質すとともに、特に**若者の再犯防止**のための自立支援策として、**住居の確保**(市営住宅への単身者入居要件の見直し)や**就労支援**(更生のために就労の受け入れをする協力雇用主制度の拡充)、基礎的能力の習得指導等を求めました。また、LGBTQ当事者が**ありのままの姿で働き、自分らしく暮らせる社会**となるように、LGBTQフレンドリー企業登録制度の周知や、あらゆる企業へLGBTQの理解促進のための啓発、研修、チラシ・ポスターの作成を求めました。

地域活動で全市域のバリアフリーを進めよう

総会質疑[9月21日] **近藤 里美 (南区)**

本市のバリアフリーは、R3年改定の基本計画に基づきR7年度を目標年次として、千早・橋本・アイランドシティの3地区を追加した全22の重点整備地区で、優先的に進められています。重点地区以外は、道路の新設・改良と合わせて歩道のフラット化や側溝の蓋の改良がなされていますが、電動シルバーカー等の利用増もふまえて、**地域活動の視点にバリアフリーを取り入れ**、当該地区以外のバリアフリー化にも積極的に取り組まれるよう要望。また、障害者差別解消法の改正により来年4月からの**事業者に対する合理的配慮の義務化を前提に**、ハード・ソフト両面からのバリアフリー化に向け、所管局より市民や事業者に対し幅広く周知する旨の回答を得ました。

車いすスポーツのために体育館の開放を!

総会質疑[9月20日] **山田 ゆみこ (博多区)**

本市には障がい者のためのスポーツ施設が市内に1か所しかないため、「いつも埋まっていて施設確保が困難」という声がありました。新たなスポーツセンターの設置予定もないため、**車いす利用者でも気軽にスポーツを楽しめるよう**、市立小・中学校の体育館を利用できないか質問しました。学校や地域団体の利用を優先した上で、車いすスポーツで利用できる**体育館をまずは各区に1校モデル校として開放**することを提案し、併せて、一部の学校はバリアフリー化されていないため、まずは市として実態把握をするよう要望しました。体育館の開放については様々な課題もあることから前向きとはいかなかったものの、実態把握は行うとの答弁を得ました。

行政サービスを守れ! 技能労務職の活用を

総会質疑[10月3日] **田中 たかし (西区)**

福岡市の人件費の低さは他政令市比較で一番。これは技能労務職を民間委託や会計年度任用職員への対応に変更したことによります。その結果**ごみ収集や学校などの現場で行政サービスが低下している**と指摘。職員の合理化の必要性は認めつつ、**契約通りに業務履行しない業者の存在も明らかにし**、今まで技能労務職員が保っていたサービス水準が維持されるよう**委託業者へのチェック体制の改善を要望**。また、人事や財務の柔軟性によって無駄な業務を省き、業務運営上の工夫やICT化によって、**職員一人あたりの生産性を高めることが本当の合理化である**と述べ、削減ありきではなく、現場の実態に即した技能労務者の適正な配置と雇用制度の見直しを求めました。

昨年度の一般会計決算を認定せず

我が会派は決算審査方針に基づき、総会質疑と各分科会等で決算審査に臨みましたが、令和4年度一般会計について不認定と判断しました。環境行政について本市は2040年カーボンニュートラルを目標に掲げているものの、温暖化対策関連予算の執行率が55.7%に過ぎず施策効果が十分といえないこと、子育て行政について、「子ども習い事応援事業」の利用率が非常に低かったことに加え、利用者の約8割が学習塾での利用となり、本来の事業目的である子どもの貧困対策として成果があったとは到底認められないことなどを理由として挙げ、令和4年度の一般会計歳入歳出決算を認定できないとの立場で討論し、決算議案に反対しました。

第12回 議会活動報告会



9月14日(木)、第12回議会活動報告会を開催しました。統一地方選挙後初となった報告会では、「会派基本政策2023」の概要と、令和5年度予算にどの程度反映されているかなど、ご報告をしました。引き続き、頂戴しました多くのご意見・ご要望をいかしてまいります。

※当日の資料は、HPにございます。ご参照ください。▶

